

自然薯、今年も元気に成育中



元気に育っている自然薯

昨年はツル、葉の成長もよく、中には失敗作もあるものの、立派なイモが収穫できました。今年も同じ畑で種芋約250本を植付け。昨年は省力化(楽)をしようと畠をあまり高くしなかったせいか、一部に水はけの悪い所がありました。その反省から今年は畠を高くして(畠立て作業が大変で

ト
ヒ
ツ
ク
ス

腰にきました)水はけを改善しました。秀品率アップに期待です。また、マルチ張りが遅れ、畠に草がぼうぼうに生えてしまい、ぶどうの忙しい時期に草取りに時間を取り大変焦ったので、今年は早めの5月下旬に電気柵内側の圃場内全面に白黒マルチを張り終えました。おかげで草取りの手間が大きく省けました。夏には、旺盛にツル、葉が茂るようになり花もたくさん咲いています。

6月には今まで活動していた新山自然薯生産組合が、生産農家だけでなく、加工、流通も含めて活動していくことということで新しく組織を立ち上げ、メンバーも町内全体に広がっていることから「吉備高原自然薯研究会」という名称で新しくスタートすることになりました。



収穫した自然薯と自家製コンテナ

ぶどう園には毎年たくさんのお客様方が姿を見せます。一部紹介しますと、いのしし、犬、たぬき、猫、野うさぎ、へび、カラス、雀、かぶと虫、これほ、せみ、カメムシ、カワリ、ハエ、蚊、ブヨなどです。

いのししは早朝にきて、鼻で畠の土を掘り返してミミズを探し、地団駄を踏んで帰るようですが。なかなか抜けない頑固な草も、根っこからひっくり返しているのでその鼻力には脱帽します。ただし凹くなった土で足をとられることがあるので要注意。 犬が迷いこんできた時は「だるまさ人が転ね

だっこ」をしました。私が動くとちよつと閑隔を開けて犬も動く。私が止まると犬も止まるの繰り返し。ビオーネの房を見ながら、目の端で犬の姿を追っていました。なかなか勝負がつかないので、近づくとさーっと逃げ去りました。恥

かしがい屋
ですね。

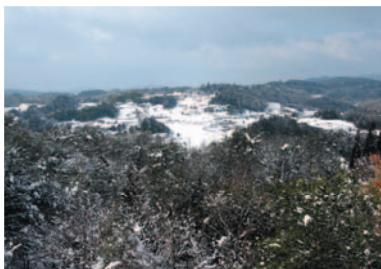


農園カアチヤンの
よもやま話

収穫の頃には、たぬきがピオーネの木に登って房を食べているようですが。島達も甘い香りに誘われて、空から房をつつきにやってきます。防鳥ネットを張っていても、小型の鳥は入場。一粒二粒突いては違う房を狙うので「同じのにしてくれ」と頼みたい心境です。

一番困るのは蚊やブヨなどの吸血鬼軍団。一生懸命、汗を流せば流すほど、近づいてきて献血させられます。あとに強烈ながゆみやはれを残して。自然との共生は、楽しくもあり、難しくもありというところでしょうか。(kiyoko)

このたびの東日本大震災で被災された皆さんに、心よりお見舞申し上げます。



円城の雪景色



満開の桃の花



剪定後のぶどう園

